

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1278400088		
法人名	医療法人美篤会		
事業所名	グループホーム美しの里		
所在地	千葉県南房総市和田町松田715-1		
自己評価作成日	令和4年12月15日	評価結果市町村受理日	令和5年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和5年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海や山に囲まれて自然や季節を感じながら、家庭的な雰囲気の中、のんびりと過ごしていただける環境にあります。敷地内の畑や、グループ内の畑で季節ごとに野菜や果物を栽培しており、採れた野菜などもメニューに活用しています。利用者様も、菜花を使いやすいように一束ずつ仕分けして下さったり、ご家族様よりいただいたそら豆の殻むきをして下さっています。コロナ禍以前は、桜の木の下で、お花見がてら食事会をしたり、前にある中学校まで散歩したりもしていました。なかなか外出することが出来ませんが、理念にも掲げている家族と思える介護に専念することを実践できる様、利用者様とご家族様に寄り添い安心して生活していただける様努めています。母体である協力病院と医療連携を図り、体調に変化があった場合には、報告相談し早めの受診につなげられる体制になっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊かな自然に恵まれた立地であり、広い庭内で気軽に散歩や外気浴をすることが出来る。敷地内には畑もあり、かつて畑仕事をしていた利用者には昔取った杵柄を發揮できる場所となっている。ホームの理念は「地域の方との触れ合いを大切にして、入居者の安心と安全を第一に考え、心から家族と思える介護に専念する事」であり、管理者・職員は、家族同様に利用者に接することを心がけている。利用者は10時と15時のおやつの時間になるとリビングに集まり、皆で会話や体操を楽しんでいる。それ以外は居室やリビングで思い思いに過ごしている。当ホームでは自宅にいた時と変わらない暮らしの提供に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 グループホーム美しの里	「地域の方との触れ合いを大切にして入居者の安心と安全を第一に考え心から家族と思える介護に専念すること」を理念としています。毎日、朝の申し送り前に全員で唱え確認し、実践につなげています。	理念はリビングの目に入る場所に設置されている。毎朝の申し送り時に唱和し、職員への意識づけを図っている。利用者に対しては、日々の生活の中で、家族と同様の関係性を築くよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は、中学生の体験学習の受け入れや、高校生が、生花や野菜の訪問販売に来てくれたりと交流がありましたが、コロナ禍の現在は、なかなか地域の方と交流を持ってない状況ではあります。	自治会に加入し、回覧板を通じて地域情報を得ている。消防団からは消火栓の扱いを教わっている。近隣から野菜の差し入れがあったり、空き状況の問い合わせを受けたりするなど、良好な関係を保っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	南房総市の福祉避難所として協定を結んでおり、災害時等、避難所で過ごされるのが、困難な方がいらっしやった時など、協力できるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍以前は、1階と2階で交互に運営推進会議を行っていましたが、現在は書面にて事業所報告を行い、不明な点やご意見などを返信していただいています。	コロナ禍のため書面開催としている。家族代表、市職員、区長、民生委員、老人会会長を構成員とし、ホームの利用状況、利用者の入退院や受診および健康状態、アクシデントや行事を議題とし、2か月に1回開催している。	各構成員からの意見・質問を募っていない。事前に議題と質問票を送付し、回答を記した議事録を作成・返送することで、双方向の会議とする取り組みを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方も受け入れており、社会福祉課の担当者も定期的に面談や、連絡を下さっており、対応について相談に乗っていただいたりしています。	市の高齢者福祉課、社会福祉課と連携し、報告や相談で連絡を取り合っている。コロナ禍の現在は、電話での話し合いを通じて、必要な情報を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ず抑制が必要な場合もあり、ご家族にもご本人様の状態を報告し、ご理解と同意をいただいた上で、対応しています。不必要な身体拘束がないよう、どんな行為が身体拘束につながるのかを十分に理解し介護に従事するようにしています。	「身体拘束等の適正化のための指針」があり、リスクマネジメント委員会で指針に基づいた検討が行われている。実施の際は手順に基づき、家族の同意を得ている。なるべく身体拘束をしないケアに努めており、職員間で意識しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内出血など気づいた時には、職員間で話し合い、介助の仕方について確認し、注意し合っています。介助の際にも、身体に触れる時は必ず声かけ、表情の観察をしながら行うよう注意しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されていた方も、以前いらっしゃったので、必要性については理解しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に説明し、ご理解いただいた上で、契約していただいています。その後、確認事項や改定などがあった場合には、その都度対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の会話の中からも、不満や要望を汲み取り、可能な場合には、要望に沿えるよう対応しています。	家族の意見・要望は面会時に聴き取りしていたが、コロナ禍の現在は電話中心となっている。利用者の思いや意向は居室や風呂などで聴いている。会話が難しい利用者にはホワイトボードで筆談するなど工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の業務の中でも、職員の思いや意見を聞き、必要に応じて、対応できるようにしています。	職員意見は、日常的に管理者が聴き取りしている。職員提案の具体例として、ホーム内の装飾や文書等のコピーに関する係分担見直し、防犯対策として門扉へのセンサーライト設置などがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務改善会議を通して、本部への要望があれば議題として取り上げてもらい、検討してもらえるようにしていました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	合同研修や院内研修も、コロナ禍にあつて、なかなか行えていない現状ではありますが、技能実習生の受け入れもあり、日々の業務の中でも実習生と職員とが、お互いが介護力を上げていくよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍以前は、安房地域のグループホームで管理者の集いを開催して、近況報告や対応困難な事例について相談したり情報交換の場になっていましたが、現在は休止しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お話や表情から、ご本人様の思いを汲み取れるよう努めています。ご家族やご自宅から離れての生活となるため、まずは安心出来る居場所として感じていただけるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しづらいこともあるかもしれませんが、これまでの事例などをお話し、ご本人様の現状を把握できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の現状をよくお聞きし、施設にて対応できることだけでなく、出来ない事も含めて説明し、対応させていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おひとりおひとりが、出来ることの違いはありますが、一緒に出来ることをお願いしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍でゆっくりと面会に来ていただいたり、外出外泊も出来ていませんが、電話や手紙などでご本人様を元気づけて下さったりと支えていただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	差し入れや、プレゼントをいただいた際には、お礼の電話を入れ、ご本人様ともお話ししていただいています。また、ゆっくりと面会はしていただけてませんが、玄関先で距離を保ちつつ、お顔を見ていただいています。	馴染みの人や場所は、家族や居宅のケアマネジャーから聞き、職員間で共有している。畑仕事が好きだった利用者には、ホームの畑で活躍してもらっている。新型コロナ流行前は、家族の了解のもと、知人の来訪を受け入れていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物を畳み始めると、「手伝うよ」と声を掛け合って手伝って下さったり、いつもの席に姿が見えないと、どうしたの?と心配して下さったりと利用者様同士馴染みの関係が出来ています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	協力病院に移られた方もいらっしゃるので、病院に行った際には、顔を見に寄らせてもらったりしています。ご家族様とも、施設外でも気軽に声をかけていただける関係は続いていると思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向に沿えるよう努めています。希望に添えない状況もありますが、ご家族様にも相談しながら、対応しています。	入居契約時のアセスメントで生活歴を聞き取っている。日々の状況は申し送りで共有し、記録にも残している。入浴時の会話やちょっとした仕草から情報を得ることもあり、コミュニケーションの時間を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様のこだわりや、生活習慣などの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの日々の過ごし方の把握に努めています。いつもと違う会話や表情などからもご本人の心身の状態を察知できるよう、心がけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃より、ご本人の様子や受診時のお話などを報告し、ご本人の現状に合った支援を出来るようにしています。	個人記録の情報や家族の意見を取り入れて、6ヶ月に一度、介護計画の見直しをしている。変化がある場合は現状に即した計画に変更し、利用者本位の生活となるよう支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	不穏時の会話や、どんな時に不穏言動があったか、また、喜ばれたことなども記録し、情報共有しています。また、共通の対応ができるよう申し送りや、介助の仕方なども話し合っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、ご本人の現状やについてご家屋と相談しながら、可能な限り出来ることを対応しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の床屋さんが、定期的に訪問して下さっています。コロナ禍でお休みが続いた時には、利用者様も「いつ来てくれる？」とずっと待っていました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際に、かかりつけ医の確認をし、協力医療機関への移行についても、主治医の先生と相談して進めています。専門医の診察が必要な場合には、継続して診ていただけるように支援しています。	入居時、かかりつけ医について意向確認している。ホームの協力医療機関受診は職員が同行し、医師と情報共有をおこなう。これまでのかかりつけ医、専門医を希望する場合も、継続して受診できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関と、訪問看護にて報告・相談等行い、いつもと違う様子が見られた場合には、早めの受診につなげられるようにしています。また、処置や点滴など必要な場合にも、訪問にて対応してもらったこともあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを作成し、状態が安定したら、なるべく早くこれまでの生活に戻れるよう支援しています。退院前には、リハビリや食事の様子を見せていただいたり、退院後も変わらず支援して行けるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の状態について、主治医からお話がある時には、同席させていただいています。施設で出来ること、対応が困難なことなども説明し、ご本人様にとってより良い環境を提供できるよう考えています。	看取り介護に関する指針があり、入居時に説明している。重度化した場合は医師が家族に説明し、意向に添うよう支援している。ここ数年は病院での最期を希望する人が多くなり、ホームでの看取りはおこなっていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の日中の様子などから、急変が考えられる場合など、慌てず対応できるよう日々の業務の中でも、万が一を考え職員間で話し合っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	前もって、準備できる気象情報など十分注意しています。全職員が昼夜を問わず対応できる方法を身につけているとは言えず、夜間の体制など取り組んでいかなければいけないと思っています。	年2回避難、消火訓練を実施し、消防署員が訓練に参加して、避難場所の相談に乗っている。災害時の備蓄食料、衛生用品、発電機などを備えている。訓練時に設備の稼働訓練はおこなっていない。備蓄品の一覧表が作られていない。	備蓄品の一覧表を作成し、目に見える管理をすること、設備の稼働訓練をおこなうことを期待する。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声のトーンや大きさ、言葉選びなども、それぞれの利用者様に合った声かけが出来るように努めています。ジェスチャーや、目線を合わせてお話しするなど伝わりやすい方法を考えています。	日常の支援の中で、声かけが不適切と思われる際は、管理者、職員間で注意し合い、プライバシーの確保に努めている。居室の廊下側の窓にのれんを下げて、視線を遮る工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の答えを急かすような声かけをしないよう注意しています。利用者様の表情を見ながら、利用者様に答えを待つようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で自由に過ごされたり、1人の時間を過ごされることも必要かと思えます。他者との関わりを持ちながらも、気兼ねなく過ごす時間も持てるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のこだわりや、好みなどもあり、その方らしく過ごせる様、また着心地の良い物で過ごせる様支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	常食、ミキサー食、きざみ食などそれぞれの食事形態でも、一緒に楽しめるよう、彩りよく盛り付けたりしています。	食材は職員が地元の商店で購入し、調理も職員がおこなっている。利用者は野菜の下ごしらえや、テーブルふきなどでかかわっている。おやつ作りや誕生日会、クリスマス会など利用者の希望を取り入れて、一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のペースや、食事量も皆さん違いますが、それぞれに対応しています。苦手な物や、食欲不振がある時などは、代替品を用意し食べやすい物に対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き・うがいが困難な場合は、ブラッシングと口腔清拭を行い、口腔内の清潔保持に努めています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、皆さんトイレでの排泄が出来るように支援しています。全介助の方も、2人介助で対応しています。夜間は時間にて声かけや、パット交換・体位交換を行っています。	排泄のタイミングを職員間で共有し、日中はトイレに誘導している。歩行が困難な利用者も二人介助でトイレ誘導し、排泄の自立に繋げるようにしている。夜間は、ポータブルトイレ利用の希望があれば対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保や、腹部マッサージし排便を促すなどここに応じた対応をしています。それぞれ皆さん排便のリズムが出来てくるのですが、なかなか難しい方は、主治医に相談し下剤の調節をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全介助・二人介助の方もいらっしゃるため、週2～3回の入浴ができるように、こちらで入浴日を決めさせていただいています。ただ、一日おきに入りたいと希望される方もいますし、気分が乗らず日を改めて入浴される方もいらっしゃるため、その時々で対応しています。	週2回から3回の入浴を基本としている。午前中を希望する利用者には、入浴出来るよう工夫している。ゆずを入れたり、好みのローション、シャンプーを使って入浴が楽しくなるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の明るさや、室温などそれぞれ過ごしやすく、心地よく休んでいただけるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご本人の状態を把握し、主治医の指示通り服薬出来るように受診時の指示など、申し送りして情報共有しています。飲み込みが困難な方は、薬剤師に確認したうえで、砕いて服薬ゼリーを使用しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課として洗濯物たたみや、洗濯干しを手伝っていただいたり、ご家族様にいただいたお花を生けていただいたりしています。なかなか外出も出来ないため、得意なことに集中することで、気持ちを平穏に保つていただけることもあるかと思えます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は、ご家族の協力のもと、定期的にご自宅へ外出される方もいらっしゃいましたが、コロナ禍となってからは、来ていない状況です。良く晴れた夏の日でも、少しでも風にあたり、「寒い」と感じてしまう方や、億劫に思われる方もいらっしゃるため、敷地内の桜や梅の実、畑を見に行ったりしています。	利用者の気分や体調を考慮しながら、ホームの庭や畑の散歩をおこなっている。感染予防のため、外泊、外出も控えているが、コロナが終息した時は、利用者が楽しみな行事や、外出の計画がある。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は基本的には施設で行っています。以前は、職員と一緒に買い物に行くのを楽しみにされていた方は、ご家族も了承のもと自分のがま口を持っていた方もいらっしゃいました。現在は、食事や受診の際にお会計を心配される方には、一緒に確認してもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご友人と電話でお話していただいています。お留守だとがっかりされてしまうため、職員が先にお電話しますと伝え、かけ直すこともあれば、ご家族やご友人から、かけ直して下さる事もあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で休まれる方もいらっしゃいますが、リビングで過ごされることも多いので、不快にならないよう心掛けています。換気、除湿、加湿など調節し快適に過ごしていただけるようにしています。	広い窓から光が入り、暖かなリビングにはソファが置かれている。利用者と職員が作った作品が掲示され、季節の花が飾られている。職員と利用者は和やかに過ごしており、家庭的な雰囲気だった。利用者は思い思いに過ごすことが出来ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や窓際に日に当たられたり、1人の時間を過ごされたりしています。また、居室も閉めきってしまうと不安に思われ、「半分開けといてね」と希望される方もいらっしゃいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際には、お布団や衣類など、日常的にご自宅で使われていたもの、見慣れたものなどを用意していただくようお願いしています。	居室には手作りの名札が掛けられて、分かりやすくなっていった。室内は、好みの寝具が持ち込まれ、馴染みの写真や、家具なども置かれている。清潔であり、換気もおこなわれていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いす移動の方もいらっしゃるのので、移動が出来るように、食席やソファの配置など考えています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと